

付候寫」とあり、領内に産する藥草を悉く寫生したもので、内山覺仲の撰に係る。

ヤグチ 矢口 金澤の舊地名。中橋から宮腰往還に出る間の惣稱であつた。龜尾記に、石川郡宮腰・大野等のものが、金澤の城下に入る口であるから、家口の意なるべく、泉町の入口を間口といふ類だとしてゐる。

ヤクビキ 役引 藩政の時、當役を缺勤することをいうた。又士の知行に相當する役銀上納を免除せられる場合をいふこともあつた。例へば、『月番加判被仰付候得者五千石引。御城代御用・御勝手方御用には役引無之。組頭千石引。』といふが如きは、五千石又は千石に對する役銀上納を要せざる意である。

ヤクマヤク 役間役 ↓ヤクギン 役銀(金澤)。

ヤグラ 矢倉 矢倉は、城内は勿論、藩士居邸の長屋にも藩初以來設けられたのであるが、萬治二年七月九日の令に、『居屋敷長屋の端に矢倉仕候儀御停止に候。』とあつて、將來築造することを禁止せられた。しかし在來のものも尚そのまゝであつたが、追々火災等に失はれ、香林坊惣構土居際の前田平太夫邸の長屋にのみ角矢倉を存したけれども、それも寶曆九年の火災に罹つた。

ヤグラダニ 矢藏谷 羽咋郡堀松庄に屬する部落。

ヤグラダニスミヨシジンジャ 矢藏谷住吉神社 羽咋郡矢藏谷に鎮座する。小祠であるが、舊社であつた。今は單に住吉神社と稱する。

ヤクリヨウ 役料 ↓リヨウチ 料知。

ヤクリヨウギン 役料銀 加賀藩では、平

士以下の役懸ある者に、別に役料として知行を給せず、銀若干を與へて之に當てるものがあつた。役料銀といふのはそれである。

ヤケヤマ 燒山 河北郡本木のうち小杉部落の北に在る山。高さ一八九米。地質第三紀層。

ヤケヤマ 燒山 鳳至郡當目のうち田代部落の南方に在る山。高さ圖上測定三四〇米。地質第三紀層。

ヤゴアゲチマチ 屋後上地町 金澤の舊町名。元祿九年の地子町肝煎裁許附に、『古御指町・屋後上地町』とある。この町名は今絶えて、所在明らかでない。

ヤゴウチ 屋後氏 元祿元二年の土帳に、半役衆二百石屋後興助、大筒打百石屋後治右衛門があり、寛永四年の土帳には、御馬廻二百石屋後興助・御傍衆二百石御鐵炮爲磨奉行屋後次右衛門があるが、寛文元年の土帳以後屋後氏の見えない。又古く天正頃には村井長頼の臣に屋後太右衛門があつたが、その子孫もない。村井家記に屋後を屋後野に作るものは、阿井を相野に作るの類で非である。

ヤコモノガタリ 野狐物語 一册。享和三年に成つたもので、大規模朝元の流刑事件を稗史風に取扱つたものである。見語大鵬選又は越路加賀見等同種のものよりも古い。

ヤゴロジマ 矢頃島 石川郡山島郷に屬する部落。初めは彌五郎島といひ、寛文十年の村御印には矢比島としてある。

ヤザキ 矢崎 能美郡栗津郷に屬する部落。村御印には矢比島としてある。

ヤシキ 屋敷 (一)諸士の邸宅―屋敷とは元來邸地の義であるが、諸士の邸宅をもしか呼んだ。邸地は諸士の知行に准じて藩から給

せられ、必ず土屏を以て繞らし、門・長屋・物見を設け、人持組の士以上には裏門もあつた。表門の内に扉重門があり、式臺前には鏡石があつた。來訪者の鏡石を踏む時は、雨雪に拘らず從者に携へしめた太白緒の藁草履に穿き代へ、それを福草履といふた。邸宅の構造も祿高に應じて差があつたが、その完備したも

のには式臺・中式臺・使者の間・次の間・表座敷・常座敷・廣間・書齋・茶室・當主居間・嫡子居間・妻室居間・隱居所・納戸の間・化粧の間・茶の間(臺子の間ともいふ)・次の間・臺所・湯殿・物置・用人部屋・若黨部屋・上下便所等があり、二階建は極めて少く、小者の部屋と既とは門内に在つた。自分知三千石以上の士は別にな

屋敷を有し、その中に陪臣を住せしめた。(二)足輕等の屋敷―足輕その他組小者の邸地は大繩と稱し、一組に就いて區劃し、その中を各自に分割した。土屏はなく、高さ七尺許の杉又は木槿の生垣で圍まれ、門戸なく、長屋なく、式臺なく、二階がない。若し二階を造れば、表面からは平屋に見えるやうに低く造り、裏口にのみ窓を開いた。

(三)被下屋敷坪敷―藩より家中諸士以下に下附する屋敷坪敷は、萬治二年十一月の令によつて左の如く定められてゐた。後世に在つても大綱は是より出ることがない。

千六百歩 一萬石から九千石迄

千四百歩 八千石から七千石迄

千二百歩 六千石から五千石迄

九百歩 四千石から三千石迄

以上若し知行に端敷がある時は、五百石は上へ付け、四百九十石までは下へ附けた。

八百歩 二千九百石から二千六百石迄

七百五十歩 二千五百石から二千石迄

六百歩 千九百石から千五百石迄

五百五十歩 千四百石から千石迄

五百歩 千石から八百石迄

四百歩 七百石から五百石迄

三百歩 四百石から三百石迄

二百歩 二百石から百石迄

以上の知行に端敷があれば、五十石から上へ付け、四十九石迄は下へ附けた。

百二十歩 九十石から六十石

七十歩 五十石から御切米五十俵迄。御歩之者母衣者御算用者五十俵から内でも此歩敷。

五十歩 御鐵炮之者其外掃除坊主・御御指。

三十歩 御小人

七十五歩 人持下屋敷百石當り。

百七十歩 町醫者並

千五百五十歩 與力千石之當り

ヤシチ 彌七 金澤では、行爲の恒常より異にして奇僻ある者を、俗に彌七といふた。加賀古跡考に、石川郡大野村の横屋某の下人に彌七といふ者が居て、甚だ奇行のあつたことを載せてゐるが、それから起つた名稱であらう。

ヤシホノミナト 八潮の湊 江沼郡潮津嶺かみ出といふは、柴山湖の邊りの平山であるが、此の所を八潮の湊といふたと傳へる。往時舟の入つた所であるから湊といふたのであらうと、羨懸紀聞には記してゐる。湖水が潮津から篠原を経て海に通じてゐた爲に、こゝに湊があつたのだとする説は牽強に過ぎぬ。

ヤク―ヤシ